

「ふくしまの米」求評懇談会を開催

米穀部米穀販売課

11月14日（月）郡山ビューホテルアネックスにおいて「ふくしまの米」求評懇談会を全国の主要取引先、行政、JA関係者から合計34名が出席し開催いたしました。

産地代表として管野JA福島五連会長、取引先代表として(株)むらせ村瀬社長様よりあいさつをいただいた後、全農から全国の米穀情勢と4年産の作柄等、産地の取組みとして「販売方針」と「販売計画」について報告いたしました。また福島県からは「PR施策」を説明しました。

「ふくしまの米」に関する意見交換では北海道から沖縄までの出席された取引先様から、福島県産米の使用状況等が紹介された他、ご意見・ご要望をいただきました。

求評懇談会終了後に開催した懇親会では、「福、笑い」「コシヒカリ」「天のつぶ」の福島県産オリジナル米の3銘柄を食べ比べしていただきました。そのほかの食材として福島牛福島県産の農畜産物を使用した料理を振る舞うなど福島県の魅力発信をおこないました。



産地代表の管野JA福島五連会長



懇談会の様子（意見交換）



取引先代表の(株)むらせ村瀬社長



懇親会で提供した県産オリジナル米

～第55回 JAグループ福島肉牛枝肉共励会開催～

畜産部 畜産販売課

11月19日（株）福島県食肉流通センターにおいて、第55回JAグループ福島肉牛枝肉共励会を開催いたしました。

共励会は県内の和牛肥育農家が丹精込めて育てた福島牛を出品し、日頃の飼養管理技術の成果を確認する場となっています。

せり前日には購買者との懇談会を開催し、県内外での福島牛の評価や、購買者が求める枝肉について意見交換をおこないました。

せり結果はJA東西しらかわ 大河内則子氏の出品牛が最優秀賞を受賞し、枝肉重量700.5kg 枝肉金額5,003円で（有）七海食品様(写真)にご購買頂きました。

現在コロナ禍で牛肉の荷動きが悪い中ではありましたが、活発なせりを開催することができました。



「TACパワーアップ福島大会」開催

営農支援部 TAC推進課課

11月17日JA福島ビルにおいて、県内JA-TAC管理者・担当者約40名が参加し、JAの活動のレベルアップとTACのモチベーション向上を目的として「TACパワーアップ福島大会」を開催しました。

午前の部では、福島地方気象台の高橋調査官から「農業気象について」と題して、近年の地球温暖化による今後の気象変貌や気象情報の入手及び活用方法、農業技術との連携など農業災害に対する備えに役立つ情報や取組について講演をいただきました。



約40名が参加した福島大会

午後の部では、「農業ICT技術を活用した営農支援」「農業労働力支援の取組」「GAPの取組」等、本会の担い手・法人経営体への支援活動について取組を共有しました。

担い手支援活動は、年々専門的で幅広いものとなっておりますが、今後も更なる活動のパワーアップを目指して進んでいきたいと思っております。

福島発キュウリビズ 愛情込めてキュウリ栽培大作戦 審査会

園芸部 園芸課

全農福島と福島民報社、JA福島中央会は、11月4日（金）福島民報社において「福島発のキュウリビズ 愛情込めてキュウリ栽培大作戦」の審査会をおこないました。

この取組みは平成21年度から始まり、大震災の影響で23年度～25年度は休止したものの、26年度から再開し今年で11年目となりました。

福島県内の小学生を対象に、福島県名産のキュウリを育てる事で、生命を育てる難しさ・生命の尊さを学ぶとともに、野菜を育てて食卓に届けてくれる生産農家、食材を調理してくれる保護者、生命ある食材への感謝の気持ちを育むことを目的として実施しています。

全農福島から各小学校へ苗を配布し、小学校は6月～9月にかけてキュウリの栽培と観察を実施し、栽培終了後に①栽培日記②キュウリの料理レシピを作成して出品をしてもらいます。今年は26校から出品があり、厳正な審査を行った結果、最優秀賞、優秀賞、特別賞をそれぞれ選出しました。

作品の中には「キュウリが嫌いだったけど、自分で栽培してみてキュウリが好きになった！」というコメントやキュウリ栽培経過をスゴロクにした作品等、楽しみつつもしっかり栽培を行い、様々な視点から栽培日誌が作られ審査員も感心する出来栄でした。

最優秀賞には磐梯町立磐梯第一小学校、優秀賞には2年連続で会津若松市立謹教小学校が選ばれ、特別賞には合計10校が選ばれました。

受賞されたみなさま、誠におめでとうございます。



真剣に作品を確認する審査員



最優秀賞 磐梯第一小学校の作品



工夫を凝らした作品が多数

大規模水稻農家の皆様へお得なご提案！

～農薬担い手直送規格について～

肥料農薬部 肥料農薬課

全農福島は農薬のコスト低減を目指し、大型規格よりも更に大きな「担い手直送規格」を販売しています。

「担い手直送規格」はスケールメリットに加えて、完全受注生産、メーカーからの直接配送など徹底した物流コストの削減により、価格引下げを可能にしました。通常規格（水稻育苗箱処理剤⇒1kg袋、水稻除草剤1キロ粒剤⇒1kg袋）と比較し、約2割～3割のコスト低減効果が期待できます。

全商品ともに予約注文期間が決まっておりますのでお早目のお問い合わせ、ご注文をいただくと幸いです。

担い手直送規格についての「取扱い品目の内容」「配送スケジュールの詳細」などお問い合わせはお近くのJAまでよろしくお願いいたします。



通常規格
(1kg袋)



大型規格
(10kg袋)



担い手直送規格
(20kg袋×2)

※品目により規格・荷姿は異なります

●完全受注生産で、
農家の皆様へ直送！

商品は、専用注文書による完全受注生産品で、ご注文いただいた農家の皆様には、ご指定の場所へ直接配送いたします。



担い手直送規格
お届け中！

令和4年度クミアイプロパン保安講習会を開催！

燃料部 エネルギー総合課

11月16日にJA福島ビルにて、JAグループLPガス保安管理関係者を参集して保安活動の高度化を目的とした保安講習会を開催しました。

講習会は冒頭、令和4年度ガス器具販売促進マッチレースの上位入賞者10名を表彰しました。

次に2名の講師をお招きし、講習等が行われました。まず、福島県危機管理部消防保安課石井主査より「保安情勢と行政指導について」の立入検査の状況と、保安についての説明をうけました。

続いて、榎裕康弁護士より「弁護士のお仕事～身近な法律問題～」と題し、LPガス事業にも関連した消費者トラブル等の身近で起きている法律の事例等をご説明いただきました。

今年度の講習会も、受講者に改めて保安に係る認識を深めていただく機会となりました。

全農福島燃料部では、引き続き保安活動の教育・指導に努めてまいります。



ガス器具販売促進マッチレース入賞者



講習会の様子



石井主査による講演



榎弁護士による講演

～飯坂小学校野菜栽培授業 修了式～

管理部 販売企画課(広報)

現代は、日常的に農産物に触れる機会は、調理されてお皿の上に乗った状態がほとんど。「食」と「農」が隔離されている実態にあります。

私たちの食を支える産業である農業を知ってもらうため、植え付けから収穫までを体験し、農業の現場での様々な苦勞を知り、感謝の気持ちや豊かな想像力を育むことを目的として、飯坂小学校2年生37名と全農福島と一緒に授業で野菜栽培をスタートしました。

児童たちは自分の選んだ大切な野菜苗を、一生懸命管理し夏休みには自宅に持ち帰り手入れするなど、食べ物を育てる大変さを実感したようです。

児童の中には苦手だった野菜を食べれるようになったり、スーパーに行った際はどんな野菜が売られているか、見るようになった。との報告がありました。

引き続き、次世代へ県産農産物の必要性について学ぶ機会を増やしていきたいと思えます。



児童代表から感謝の言葉

2年生全員から御礼のお手紙

最終戦、頑張りました！（福島ユナイテッドFC ホームゲーム）

11月20日（日）全農福島がオフィシャルスポンサーで応援している福島ユナイテッドFC（J3）のホームゲーム最終戦が「とうほうみんなのスタジアム」行われました。

対戦相手は「愛媛FC」、互いに順位が気になる、負けられない一戦です。愛媛県からも多くのサポーターが応援に駆け付け、スタジアムの中も熱い応援合戦です。結果は0-3と愛媛の勝利となり、福島ユナイテッドFCサポーターには残念な結果となりました。全農福島として2022シーズンは、旬の農産物のPRを3回実施し多くのサポーターの皆さまにPRすることができました。

